

あさがお日和 ● ● ● 神無月

第 22 号
2025 年 10 月発行
発行者
あさがお訪問看護ステーション
〒277-0861 柏市高田 825-8
Tel 04-7186-7010
Fax 04-7186-7011
E-mail asagao@arrow.ocn.ne.jp
<http://www.care-asagao.com>

つるを絡ませて伸びていく『あさがお』

固い絆 愛情の絆 そして友情

地域に暮らす皆さまと手を取り合い


一緒に困りごとを解決していく

そんな存在でいたいと私たちは思っています



今月のトピックス

- 訪問看護開設 10 周年を迎えました
- カンタキ「あさがお」つれづれ写真日記
- あさがおの取り組み
- みんなでリハビリ 福祉用具～ベッド周辺編～
- オフ STYLE
- あとがき



みんなでリハビリ

福祉用具 ～ベッド周辺編～


担当 土岐

今回は寝台・寝床から立ち上がる際にあると便利な福祉用具と環境作りのポイントをご紹介します。環境を整えることで、立ち上がりやその後の歩行がスムーズになり、転倒を予防することができます。どのような福祉用具や環境作りができるのか一部紹介させていただきます。

※福祉用具とは…介護や介助が必要な方の日常生活やリハビリ・機能訓練をサポートするための用具や機器のこと。


ベッドからの場合

「L 字バー」




ベッドからの立ち座りがスムーズになります。

「たちあっぷ」



ベッドからの立ち座りをスムーズにしたり、支えにすることで目的地まで安全に移動できます。

「ベストポジションバー」



掴まって立つことで安定感が得られ、歩行をサポートできます。バー同士を横手すりで繋げ、目的地まで掴まり歩かせるように工夫することもできます。


床上の場合

「たちあっぷ」



数本の手すりがあるので、丁度良い高さで支持することができ、床からの立ち座りをスムーズにできます。

「昇降椅子」



床への立ち座りを座椅子に座ったまま行え、膝への負担が軽減されます。

全ての基本動作は寝起き～座る、立ち上がるへと繋がります。寝台・寝床から離れて活動することで生活にメリハリがつかます。

福祉用具の利用には、介護保険が必要になります。レンタル方法や購入方法に関しては担当のケアマネジャーまたは、訪問看護師、リハビリまでご相談ください。

オフSTYLE

～あなたの密かな楽しみ教えてください～



季節の風を感じながらのサイクリングは最高です！

澤野

あとがき

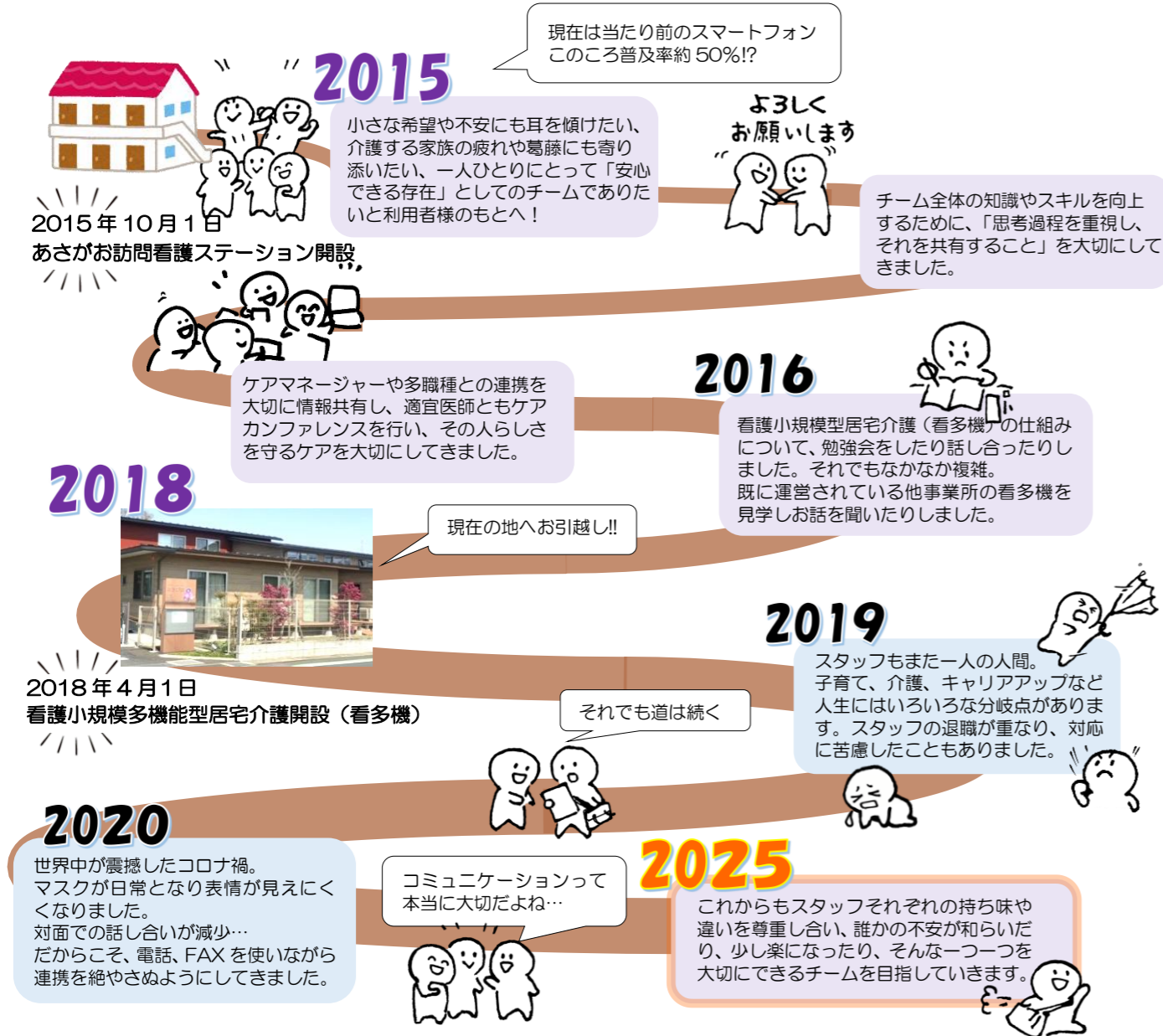
秋風が心地よい季節となりましたが朝夕の気温差にはまだまだ体が驚く日々が続いています。秋の色である赤やオレンジは心を穏やかにし、気持ちを整える効果があると言われています。季節を感じながら心身の調子も整えていきたいものです。

あさがお訪問看護ステーションは、地域の皆様や利用者様、他事業所のご支援もあり開設 10 周年を迎えることができました。今後も助け合いと前進を軸に、より皆様のお役に立てる活動を続けていけるよう広報の発信も努めて参りますので今後とも宜しくお願い致します。

細田

since 2015,10,1 あさがお訪問看護ステーション

私たちの訪問看護ステーションは、今年で開設 10 周年を迎えることができました。これまで支えてくださった、地域の皆様、関係機関の皆様、そして利用者様とご家族様に心より感謝を申し上げます。そして改めて皆様方のお力添えをいただきこの節目の時を迎えられたと思っております。今回はこれまでの 10 年の軌跡を振り返り、これから先の思いをお伝えしたいと思います。



あさがお訪問看護ステーション開設 10 周年に寄せて

気が付いたら開設 10 年となっていました。毎年毎年、想定外のことが起こり、不安になることや焦ってしまうことも多々ありましたが、それでも今日まで続いて来たということは、何とかなってきたのだとしみじみとします。尊敬する先輩たちから当時管理者を引き継ぎ、コロナを駆け抜けて落ち着いたとき、ハッと我に返ることがありました。『ステーションをどうしていきたいか…』と改めて立ち返った時、今思えば管理者としてあさがおとしての新たなスタートだったような気がします。決して大きくはない事業所ですが、人との出会いや別れを繰り返し進んできたことに、しっかりと感謝した前を向いて進んでいきます。

あさがお管理者 津和崎



あさがおの取り組み

～虐待はどうして起こる？

虐待防止委員会研修より～

具体的な事例を元にグループワークを行い、多職種の意見を交えながら対応策を考えました。様々な視点からの意見交換を通じて、虐待の早期発見や対応の重要性を再認識し、実際の現場で活かせる実践的な学びとなりました。



多職種とのグループワークは、多角的な視点や新たな発想が得られるだけでなく、コミュニケーション力や協働する姿勢、相互理解の大切さも深く学べる貴重な時間です☆

～スピリチュアルペインと

スピリチュアルケア～

今回は緩和ケア研修に千葉徳洲会病院の西部愛先生（緩和ケア認定看護師）をお迎えして行いました。

人間の存在とは「関係性、自律性、時間性」でバランスが保たれており、ここが障害された時、スピリチュアルペインに繋がる。苦しみは、希望と現実のズレから生じることなど、多職種にわかりやすくお話下さいました。

目の前の人の苦しみに目を向けているのか、意識の向け方により見え方も変わることを忘れずにコミュニケーションをとることを大切にしていきたいです。

